

国語

「国語表現Ⅱ」	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 伝え合い、わかり合うための表現活動を中心に、生徒の自己確立に向けての主体的な生きる力の育成をめざす。 2 達成感のある総合的な言語活動を通して、問題提起・問題解決の力の育成をめざす。 3 地球規模の相互理解を視野に、自らの社会・文化へ積極的ににかかわる力の育成をめざす。
使用教科書・副教材等	『008 国語表現Ⅱ改訂版』（三省堂）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	活 動 の ね ら い	備 考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連）
第 1 学 期	一 身近なテーマで書く 1 テーマを考える 2 構想メモを作る 3 構成を考える 4 文章にまとめる 5 アドバイスを受け、推敲する ◆表現の輪をひろげる 3 悪文治療法 ○表現の翼 1 表現の責任－事実と意見	4	・身近なテーマで書くことを通して、自分の考えを明確にし、他者にわかるように書く態度を身につける。 ・文章を書くための身近なテーマを見つける。 ・文章の構想メモを作り、構想を組み立てる。 ・構想をもとに、文章にまとめる。 ・他の人のアドバイスを受け、推敲する。	・グループで下書きを読み合い、意見交換しながら、よりよい文章に仕上げる。
		5	・伝えたいことが正確に伝わらない文章の問題を見極め、適切な「治療」＝推敲をする。 ・事実と意見の違いを明確にし、自分の表現に責任を持つ態度を学ぶ。	
	二「対話」から文章へ 1 テーマの決定と「動機メモ」の作成 2 「対話」とその報告 3 下書きをめぐる話し合い 4 文章の完成と提出 ○表現の翼 2 伝え合う思考と表現のために	6	・考えていることを振り返り、人に伝える文章を書く。 ・テーマを自分のものとしてとらえる。 ・インタビューやクラスでの話し合いを通して、動機メモや下書きを作る。 ・他者とのやりとりを十分取り入れた上で、動機・インタビュー・結論の流れに一貫性のある文章を書く。	・自分の心の中にあるモヤモヤを自分で探し出し、つかみ取って、他人に示すという練習をする。
		7	・自分の「考えていること」を把握する思考のプロセスと、それを相手に伝えるための表現のプロセスの枠組みについて考える。	
【課題・提出物等】 ・いずれも活動プロセスを記入した「表現ノート」や課題シートの提出。 一、身近なテーマについて書いた文章の提出。 二、考えていることについて書いた文章の提出。				
【第1学期の評価方法】 ①観察記録、作成資料（メモカード、コメントカード）、提出課題、相互評価、自己評価等を総合して評価し、10段階に評定します。 ②学期全体の評価は、提出物50％、学習への参加の姿勢や態度30％、小テスト20％の割合で評価します。「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く」「知識・理解」の観点で評価した第1学期、第2学期、第3学期それぞれの成績を総合し、年間の学習成績として1～5段階で評定します。				
第 2 学 期	三 取材から発表へ 1 テーマを決める 2 取材計画を立てる 3 取材をしてメモを取る 4 考えをまとめる 5 発表する ○表現の翼 3	9	・自分の問題として考えられることをテーマとして選ぶ。 ・取材計画を立て、取材を申し込む手紙や葉書などを書く。 ・取材メモや取材をめぐるクラスの話し合いを通じて、考えたことを文章にまとめる。 ・まとめた文章をもとに、わかりやすく口頭発表し、他の人に伝える。	・自分の考えをまとめ、クラスで発表する。

	プレゼンテーションの工夫 －わかりやすい口頭発表 ◆表現の輪をひろげる 2 論理的な文章を書く 四 体験から物語へー「創作」 ○表現の翼 4 わかりやすい表現 －「子どもの権利条約」	10 ・口頭発表の内容を聞き手にわかりやすく伝えるための工夫と方法を学ぶ。 ・発表資料（レジュメ）の利用 ・視聴覚資料（機器）の利用 ・頂角資料（機器）の利用 ・話し方の工夫 ・表情・しぐさ・姿勢・態度について 11 ・論理的であるとはどういうことか考える。 ・情報を正確に読みとったり、活用したりする方法（メディアリテラシー）について考える。 ・文章から得た情報をもとに、自分の考えを文章にまとめる。 ・視覚資料の分析方法を理解し、自分の意見を持つ。 ・視覚資料を利用してレポートをまとめる。 ・図書館やインターネットを利用する。 12 ・出来事や自分自身を客観的に見つめることが可能になるような語り手の設定を工夫する。 ・立てを工夫する。 ・叙述や表現を工夫して物語を執筆し、推敲する。 ・グループで相互鑑賞する。 ・法律の条文から、難解な語句を抜き出し、辞書などで調べる。 ・伝える中身を把握したら、相手に伝わるようにわかりやすい文章に書き換える。 ・グループで相互評価する。	
【課題・提出物等】 ・いずれも活動プロセスを記入した「表現ノート」や課題シートの提出。 「論理的な文章を書く」は、小論文の提出。 - 四 体験から物語へー「創作」は、執筆した物語の提出。			
【第2学期の評価方法】 ①観察記録、作成資料（メモカード、コメントカード）、提出課題、相互評価、自己評価等を総合して評価し、10段階に評定します。 ②学期全体の評価は、提出物50％、学習への参加の姿勢や態度30％、小テスト20％の割合で評価します。「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く」「知識・理解」の観点で評価した第1学期、第2学期、第3学期それぞれの成績を総合し、年間の学習成績として1～5段階で評定します。			
第3学期	五「自分」のことを伝える －「面接」 ○表現の翼 5 ことば遣い・敬語 表現マナー集 電話のかけ方、手紙・はがきの形式	1 ・面接する側の立場になって質問を考え、質問シートをつくる。 ・質問事項に対する自分の回答を考え、回答シートをつくる。 ・模擬面接をする。 ・評価のポイントを検討し、グループメンバーの指摘や意見を聞き、その後の面接に反映させる。 2 ・敬語に関することば遣いを中心に、相手に配慮した表現や丁寧な表現とは何かということについて考える。 ・電話や手紙・はがきの基本的な形式や慣習を学び、初めて連絡をする人や目上の人に対する改まり度の高い場合にも、適切なコミュニケーションを図るための土台を作る。	・面接という形式を通じて、自分の考えや意見、自分を適切に表現することについて考える。
【課題・提出物等】 ・いずれも活動プロセスを記入した「表現ノート」や「コピー用学習材集」の提出。 - 表現マナー集は、手紙やはがきの提出			
【第3学期の評価方法】 ①観察記録、作成資料（メモカード、コメントカード）、提出課題、相互評価、自己評価等を総合して評価し、10段階に評定します。 ②学期全体の評価は、提出物50％、学習への参加の姿勢や態度30％、小テスト20％の割合で評価します。「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く」「知識・理解」の観点で評価した第1学期、第2学期、第3学期それぞれの成績を総合し、年間の学習成績として1～5段階で評定します。			
【年間の学習状況の評価方法】 どんなことばの力がついたか、各学期の評価をふり返ってみよう。			

確かな表現の力を身につけるためのアドバイス	・考えていることを他の人に伝えるために、自分の中に「なぜ」という問いを持ち、対象としての問題をじっくり観察しながら、それを様々なコミュニケーション活動の中で解き明かしていく過程で、自分のことばを体得し、「私」でなければ表現できないことを目指そう。他者との伝え合いの中で導き出された新しい「私」への変容こそが、あなたの心とことばを生き生きとさせる表現活動である。
授業を受ける際に守ってほしい事項	・活動の目標を自分自身の問題としてとらえた上で正面から向き合い、教室の仲間とともに話し合いながら、その目標を達成し、問題を解決していくという姿勢を大切にしてほしい。 ・自らの社会・文化へのかかわりを通して、異なる状況化にある他者を理解し、その他者への主体的な働きかけによって自らの社会・文化への明確な自覚と問題意識を持って欲しい。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評 価 の 観 点 及 び 内 容		評 価 方 法
関心・意欲・態度	・自分の考えを掘り起こし、自分のテーマを見つけようとしているか。 ・他者のことばに耳を傾け、考えを理解しようとしているか。 ・他者のことばを受け止め、自分の考え・表現の参考としているか。	・学習活動への参加姿勢。 ・提出課題。 ・自己内省を言語化し、他者の表現を受容するなど、自己と他者の間で表現活動ができているか。
話す・聞く能力	・自分の考えを掘り起こし、話の筋道を立てて、ことばにして表現することができるか。 ・相手に伝わりやすいことば遣い、話しの組み立て、話し方などを行っているか。 ・相手を尊重しながら、相手の文脈に沿って聞き取ることができたか。 ・音声表現を豊かにするための努力をしている。	・グループ活動や発表会での状況・姿勢。 ・提出課題。
書く能力	・自分の設定したテーマの内容を豊かにしたり深めたりするために、適切な方法で材料収集ができるか。 ・自己内省と他者との意見交流を通して、自分の考えを明確にして、自分のことばで文章表現ができるか。 ・目的や場に応じて、相手に伝わりやすい語句を使って、適切な構成の文章表現ができるか。 ・自分の文章を教室での相互評価の中で検討し直し、説得力を高める文章にすることができるか。 ・他者の書いた文章を配慮して検討し、適切なアドバイスを伝えることができる。	・書くことに至るまでの内省や姿勢。 ・提出課題。
知識・理解	・物事の本質を、様々な立場から広く深くとらえるための情報収集に努めているか。 ・わからない語句を調べ、意味や成り立ちについて理解し、自己表現に役立てているか。 ・ことば遣い、敬語、電話のかけ方、手紙やはがきなど、相手との適切な距離を意識した、礼儀にかなった表現形式を理解しようとしているか。	・提出課題。 ・グループ活動や発表会での状況・姿勢。

3 担当者からのメッセージ

「国語表現Ⅱ」では、心とからだのことばを使って、かけがえのない自分を発見して「私」にしか表現できないことを表現する。自己内省と他者との間での表現活動の往復を通じて、他者との関係性の中で存在する強固で柔軟な自分を発見してほしい。関係性の中での表現や相互理解は、異質な他者や文化・社会を排除するのではなく、共感と尊重を持って響き合うことのできる社会の創造につながる。
